

CJM REPORTER

カナディアン ジャパニーズ ミニストリー (CJM) 2008年秋号



タノ ディビット

みなさん、こんにちは。主は実にすばらしい方です。今年のキャンプも神様は私達を大いに祝福してくださいました。恵まれた天候の中、220人程の参加者があり、去年に引き続きCJMの総会もキャンプの最中に行われました。

キング・デイブさんと長谷川ロブさんが、今年もディレクターとして参加者を賛美とキリストにおける成長に導き、ロブソン・シュクダさんもディレクター訓練生として共にリードにたってくださいました。日本語部はカルフォルニア州サン・ロレンゾ日系教会の島田直牧師がメッセージを取り次いで下さり、若者から年配の方まで多くの人々に感銘を与え、その場で少なくとも3名の方がイエス様を救い主として受け入れました。主に賛美！

今年英語部の賛美リードは林崎ダニエルさんと、宮阪タカフネさんで、メッセージは昨年同様、ジェイソン・アイリーン夫妻が語ってくれました。彼らの力強いメッセージに、キリストに従う最決心をする時となり、その結果として特に若者の間から5人の受洗者がありました。彼らの名前はキング・エリック、マイケル・ダイラン、マイケル・ダスティン、アカギリ・トーマス、シンプソン・マルコスです。それに加え、キャンプに昔から慣れ親しんだ芥川先生のひ孫にあたるハナさんがイエス様を救い主として受け入れ、それを公に証してくださいと、素晴らしい証のとき



今年のキャンプは私たちの愛するミッキー・ハヤカゼ兄弟がアフガニスタンで悲劇を遂げてから始めてのキャンプです。私達は、キャンプファイヤーを囲み、ミッキー兄弟の湧き出るような力やミニストリーにたいする情熱を思い起こし、語り合いました。ミッキー、今年一緒にキャンプで騒げないのは悲しいけれど、天国でもミッキーらしく、相変わらず走り回ってはしゃいでいることだと思います。

今年のキャンプをもって、キング・デイブさんは正式



グレース日系キリスト教会（アルバータ州、バンフ）と島田直牧師



サニーサイドキャンプにて日語部のキャンプファイヤー

にディレクターを退くことになりました。キャンプディレクターとして何年もの間、尽力を尽くし、愛をもってキャンプに仕えてくださったキング・デイブさんに心からの感謝を表します。彼のリーダーシップのもと、多くの方が祝福されました。

終わりになりますが、このキャンプミニストリーをいろいろな形でサポートして下さった1人ひとりにお礼を申し上げます。*

レスブリッジ ジャパニーズ クリスマン フェローシップ

日曜礼拝：午後2時よりFirst Baptist Churchにて。1614-5th Ave. South, Lethbridge, AB
 牧師：秋山賢 電話：403-317-1987 Eメール：sakiyama@telus.net



秋山賢牧師 真理夫人
 創平君（9）有紗ちゃん（7）

私達の日本滞在は、たくさんの方々の経済的支援と祈りにより、宣教報告、新たな出会い、再会、新発見…と充実したものでした。多くのカナダ在住の方々が、私達の日本での宣教報告を必要、大切と感じてささげてくださったことは、私達にとって驚きであり、また励ましと喜びでした。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

賢は4週間の滞在でしたが、8教会で宣教報告のチャンスが与えられ、5つの教会の牧師先生方にレスブリッジ宣教の働きを紹介する機会が許され、祈りと経済的支援の輪がさらに広がりました。関西と関東、北海道では、LJCFで関わった青年達と再会をし交わりの時をもちました。レスブリッジの高校を卒業し、KBI（関西聖書学院）で学ぶ細崇司くんは、彼が夏季伝に行く直前に会うことが許されました。最終学年を迎えた細君。神様の器として整えられている様子に大いに励ましを受けました。LJCFで神様と出会い、救われて帰国した青年達。しかし日本でクリスマンとして教会生活を送り続けることに困難

を覚えている様子を目の当たりにしました。救われた若者の信仰成長や日本に帰る前に取り組むべき課題などが見えてきて、レスブリッジ宣教と日本で帰国者を迎える教会や団体とのネットワークをきちんと作らなくては、とかなり強く思わされています。

日本で霊的なりフレッシュをさせていただき、再会から課題が見えてきたり、交わった牧師先生方々からのアドバイスで新たな知恵をいただいたり、と収穫の多い日本滞在でした。賢がカナダにもどった後、真理と子供達は、2つのサマーキャ



ンプに参加し、真理の神学校時代の奉仕教会を訪問したり、いとこやひいおじいちゃん（100歳）と時を過ごしたり、と4年ぶりの日本を満喫。子供達は日本が大好きになってカナダに戻りました。

レスブリッジの日本人の救いの為に、実が残るために、神様の宣教のために、私達を用いてくださいと新たな気持ちで9月を迎えました。どうぞ続けてレスブリッジ宣教の為に、LJCFの一人一人の信仰成長の為に祈り下さい。*

献金

秋山牧師ミニストリーのサポート、また一般会計への献金は、下記にお送り下さい。

Brenda Ohara-Peters
 669 Hillman Cres.,
 Mississauga, ON L4Y 2J1

Tel.: 905-949-4182
 Email: bjobjo@aol.com

レスブリッジ諮問委員会報告

池ノ上イワオ

<以下は、2008年10月4日にもたれた諮問委員会での話し合いを要約したものです。>

秋山聡牧師一家はこの夏、日本に一時帰国し日本での任務を果たしました。秋山師は4週間と短い期間の日本滞在中でしたが、マリさんと子どもたちは2ヶ月間日本に滞在することが出来ました。

日本訪問のための資金：

2008年のCJM総会で、秋山師への月々の給与とは別に「日本訪問のための資金」の予算を確保することが提案され、承認されました。今年の日本訪問のために必要とされた資金は8088.44ドルで、この後4年間の間にこの金額は増加することが確実に予想されますので、予算も当然多く確保しなければなりません。これをふまえて、諮問委員会は総額10000ドルのうち、7000ドルの献金を4年間のうちに募っていくことにしました。（2008年にかかった費用は総額8000ドルで、そのうち5000ドルをCJMが負担し、3000ドルが日本側で負担されました。）2012年の日本訪問の際に、日本側がどれだけ費用を負担出来るかは、まだこれから連絡をとりつつ決定していく必要があります。

日本訪問のための資金組みに付け加え、諮問委員会は、この日本訪問の期間が7週間ほどであること、宣教報告の働きに付け加え、

旅行・休暇・リラックスといった時を持ち、さらに日本から帰国した際には、回復期間として一週間の休みをとることを提案しました。

CJM副議長の福迫徹也師は、10月に韓国と日本を訪れる予定ですが、その際東京の「（秋山牧師一家を）支える会」にも出向いて下さる予定です。

話し合いが推し進められる中、カナダにも「秋山牧師一家を支える会」をつくることが提案されました。このCJMレポーターを読んでいる皆さんも、どうか祈りに覚え、導かれましたら、このサポートグループに入ることを考慮してみてください。

JCFNのカンファレンス：

秋山牧師はJCFNのカンファレンスにスピーカーの1人として招待を受けました。そのための費用はJCFN側が負担していただきます。秋山師は2009年3月14日から2週間の間日本に滞在し、その間レスブリッジでの日本人学生への伝道活動について述べていく予定です。このカンファレンスは、レスブリッジから日本に帰国する学生たちの、帰国後のフォローアップのためのネットワーク作りに絶好の機会です。*

ウエスリーチャペル日本語教会

2385 Warden Ave., Scarborough, ON M1W 2L6
日曜礼拝午前11時より 吉田エドワード牧師（日本語部）

柿原みきさんの証 — 吉田エドワード牧師

私をはじめナイアガラフォールズでパイブルスタディが開かれているのを知ったのは、2002年頃、ちょうど長女が人見知りの激しい時で、私自身も人との交流を求めている時でした。同じ年のお子様を持つお母さんと知り合う事ができ、その会を紹介していただきました。その場に集う方々は、どこかしら輝いており、ホストを務めていらした方は、いつも「いらっしゃーい。」と満面の笑顔で迎えてくださいました。もともと人に対して心を開くことのできない性格でしたが、周りの方々からも影響を受け、聖書を通じて御言葉を知ることによって、少しずつ、自分自身の経験によって固められていた鎧が取り除かれていったような気がします。



柿原みきさん、ゆみさん（娘）
シーファ牧師、吉田牧師

しかし、二人目を妊娠、流産した時、この痛みを誰も分かってくれないとふさぎ込み、周囲の人に対して嫉妬していました。そして、その頃通っていたフリーメソジストのイースターのイベントで、自分の罪を紙に書いて本物の釘で打ちつけた時、イエス・キリストの受けた痛み、その痛みと共に私たちの罪を贖ってくださったそのことの意味を、自分の手の感触で痛いほど感じさせられました。そして、その時に背負っていた辛さ、悲しみがすっと取り除かれたのです。

その約1ヵ月後には2人目を授かりました。

しかし、二人目を妊娠、流産した時、この痛みを誰も分かってくれないとふさぎ込み、周囲の人に対して嫉妬していました。そして、その頃通っていたフリーメソジストのイースターのイベントで、自分の罪を紙に書いて本物の釘で打ちつけた時、イエス・キリストの受けた痛み、その痛みと共に私たちの罪を贖ってくださったそのことの意味を、自分の手の感触で痛いほど感じさせられました。そして、その時に背負っていた辛さ、悲しみがすっと取り除かれたのです。

「何をし、どこに向かっているのか？」

金城ノリー-CJM総理事

私達が激動の時代に生きているということは、特別な啓示がなくてもわかる事実です。単に、テレビのニュースを時々見、ラジオを聴いたり、インターネットで検索したりしているうちに、生態系は崩れ落ち、モラルは消えうせ、政治的にも経済的にも混乱した世の中であることに気が付くでしょう。

そんな中でも御言葉を信じ、救い主であるイエス様に信頼を置く者は、人生に意味を見出し、神様の召しをまっとうするという目的を持って歩むことができます。

CJMが今この時に召されている働きは以下のことではないでしょうか。

1. 日本人の教会や集まりを油断なくサポートしていく。
 2. 福音の良い知らせをより多くの日本人に告知させる為に、型にはまらない方法をもってビジョンと共に進んでいく。
 3. 国や国境を越えて神の御業や御心に敏感に応答していく。
- 私が以下のことを書くのはこの3番目のCJMの働きを信じるからです。

私は神様が今、私たちの肉にある同胞である日本人に向かい、働きかけて下さっている時だと感じます。

しかし、この時はまだ自己愛の方が強く、神様を心にお迎えするということができていなかったため、教会でのご奉仕や、パイブルスタディで活動することに疲れを感じてしまいました。その後、2人目の誕生をきっかけに、今までの活動をやめてしまいました。それから、一旦は離れたのですが、隣人と親しくなり、その後家族の通う教会へ新たに行き始めました。主の御手はいつも私たちの上に置かれていたのだと思います。そして、以前活動から離れてしまった時に傷つけてしまった友人との和解、新しい家庭集会への参加など、次々に道が示されていきました。そして、その家庭集会で、普段は話せない自分の思い煩いなどを少しずつ、参加している方々と共に、聖書の御言葉を通して分かち合っていくうちに、本当の愛というのを学んでいくことができました。

そのことによって、これまでは、クリスチャン=清い人、という思いで信者の方を見ていたのが、清い方はイエス・キリスト以外にはいないのだと気付きました。私たちは、その方の表してくださった大いなる愛を受け入れ、その喜びからその方に少しでも近づこうとしている、その方法は様々であるけれど、同じところを見つめ歩んでいるのだと。そう気付いた時、私は洗礼を授かる心構えができました。そして、パイブルスタディに参加しだしてから約6年後の2008年6月30日に、晴れて恩師でトロントにご在住の吉田牧師先生から、しかも、7歳の娘と共に、同じく伝道師でバッファローにご在住のシーファ先生、そして、ハワイを拠点に伝道されている中野先生ご夫妻も立ち会ってくださって、洗礼を授けていただけることになりました。そして、何よりも一番嬉しかったのは、そこに集ってくださった方々がそれぞれに恵みの時を過ごせたことです。「わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。」（ヨハネの第一の手紙 4:19）そして、洗礼を授かってからは、本当に心が軽く、今まで胸を張って伝えられなかった福音を、家庭でも、友人にも、大胆に語る自分自身に驚いています。まだまだ自分自身が変わらなければならないこともあります。いつも共にいてくださる神を信じ、希望に満たされる喜びをもって、日々歩んでいきたいと思えます。これまでお祈りによって、私たち家族のことを覚えて支えてくださった多くの方々から感謝いたします。*

特に、若者達は海外生活体験のため、勉強のため、旅行として、自由に海外に出て行く時代となり、その間に、福音に出会い救われる例が多くあります。彼らの生活が変えられ、混沌の中にあつた彼らの心に、新しい目的、新しい人生の意味が据えられます。文字通り、何千人もの日本人が毎年カナダにやってきます。私たちそれぞれの教会の中で生まれかわり、人生に意味を見出す彼らたち。しかし多くの場合、彼らはここに住み、ここで年月をかけて育まれることはありません。日本に帰る日がやって来るからです。日本に帰り、霊的に束縛された環境の中での生活が始まるのです。これはたいへんなジレンマです。

このことについて話し合われ、サポートの手を伸ばしていくことができることを心から望みます。多くの魂が変えられて日本に帰っていくのですから。

2009年3月に埼玉で行われるJCFN帰国者コンファレンスが神様に大いに用いられることを祈ります。*



CJM理事会員2008-2009
サニーサイドキャンプにて

場所：301 Silver Star Blvd., Scarborough, ON M1V 0B6

日曜礼拝：午前11時より

教会電話番号：416-335-JGCT(5428) FAX: 416-335-5932

佐藤明男牧師（日本語部）416-495-1534

戒崎レイ牧師（英語部）905-597-5428



佐藤牧師と陽子夫人

佐藤明男牧師

私たちの教会は、ノーブルミッションというクリスチャンのボランティアを中心に教会堂を建て上げるミニストリーによって、教会堂を建てました。

実は、私たちの教会は、この建築の始まる前の年に、「40日の目的キャンペーン」を行いました。このキャンペーンは、教会堂建築を通して起こる様々な霊の戦いの、とても大切な訓練となりました。このキャン

ペーンを指導しているリック・ウオーレン牧師は、「健康な教会への鍵」という本の中で、「私たちは、神が起こされる波に乗っていかなければならない。」と書いています。

私は、このクリスチャンのボランティアを用いて教会堂を建築するプロジェクトは、神のプロジェクトであり、その大きな波の一つであると確信しました。ですから、教会員の皆さんにも、祈りや食事サービス、現場での奉仕、献金等、自分の賜物を用いて、ぜひこのプロジェクトに積極的に参加するように奨励しました。そして、実際に、皆さんがよく協力して下さいました。私は、牧師として、率先してこのプロジェクトに参加しました。勿論、牧師の仕事として、建築現場で働くという職務内容はありません。ですから、ボランティアとして働いている他の教会員の皆様と同様に、この一年間あまり、一度も休みを取らずに、平日はほとんど毎日午前中現場で働きました。私はプロではありませんから、教会堂建築現場では、掃除をしたり、ペンキを塗ったりという簡単なお手伝いをしました。そのようにして働いている私をみかけたら、たぶん出稼ぎに来ている田舎のおっさんと思われたことでしょう。

この作業現場では、毎朝7時に始まる聖書を読み、祈るデボーションの時間から、一日の作業が始まります。それは、これが神のプロジェクトだからです。また、他の現場で聞こえる怒鳴り声や、聞くに堪えないような汚い言葉が一つも聞こえてきません。6ヶ月の予定でしたが、建設期間は1年5ヶ月もかかってしまいました。しかし、その分、このプロジェクトがなければ知り合うことの出来なかった、数多くの素晴らしいクリスチャンのボランティアの人たちとの素晴らしい交わりがありました。私たちの救いは、イエス・キリストの十字架の上の贖いによってなされています。それと同じように、私たちの教会は、ボランティアの人たちの血と汗と涙によって建てられたのです。

トロント市役所からの会堂使用許可も下り、いよいよ10月25日には、献堂式を予定しています。聖書には、「人の心には多くの計画がある。しかし主のはかりごとだけが成る。」(箴言19:21、新改訳)そして、また、「神のなさることは、すべて時にかなって美しい。」(伝道者3:11、新改訳)とも書かれています。神は、今も生きておられます。私たちは、これから、しっかりと神が起こされる波を見つけて、神が与えて下さったこの会堂を十分に活用し、神のご栄光を現していきたいと願っております。私たちの教会のこれからの働きのためにぜひ引き続きお祈り下さい。*



レイ牧師、実奈子夫人
シヨーン君(6)、クリスティちゃん(3)

戒崎レイ牧師

キャンプミニストリー：今年私達は、50年間以上もの長い間毎年使用した、使い慣れたキャンプ場を後にし、ロンドン・オンタリオ州にあるピアス・ウィリアム・クリスチャンセンターへと移りました。今年のキャンプは参加者42人(スタッフを除く)とこじんまりとしたものでしたが、キャンプ委員たちはそれに臆することもなく、キャンプミニストリーを続けていくことが神様の御心であると感じ取れるような神様の取り働きを感じ、元気付けられてキャンプをリードしてい

くことが出来ました。実際のところ、私達は今年キャンプをすることができるかどうかかなり遅い時期までわかりませんでした。多くのキャンプ場と連絡をとり、見学に行き、条件が合うところがやっと見つかったのがピアス・ウィリアムでした。(初めはピアス・ウィリアムもキャンプの規模上、そぐわないとの答えだったのですが、キャンプ場自らのキャンプを他の場所に移し、私たちのために大きな施設を貸して下さいました。)キャンプ場が見つからなかったことにより、キャンプを宣伝するのが大幅に遅れました。そして、福音教会で同時に行われている教会建築という大きなプロジェクトのため、人材もあまりない状況にありました。それにもかかわらず、キャンプはとてもスムーズに行われ、今までにも増して素晴らしい交流のときもたれました。一週間を通して神様の臨在がわたしたちと共にあり、キャンプ・スピーカーであるジェイソン・アイリーン夫妻、またジェント・マイカさんを通して、大変祝福された時をもちました。

教会建設プロジェクト：私達は新しい教会堂で神様に礼拝を捧げる日を目前としています。この新しい教会堂と共に、私たちの教会が、イエス様の御心をおこなうために、また良い知らせを告げ知らせるために用いられることが、私たちの願いです。*

カルガリ一日系福音教会

教会所在地：2203 - 15A St. S.E., Calgary, AB

英語部：ブライアン・ラベンダー師 日本語部：谷口洋一師

Website: www.calgarygospel.com



GRACEPOINT FELLOWSHIP

(カルガリ一日系福音教会英語部)

グレースポイント・フェローシップの、今年のテーマの1つは、「自分自身と家族に対して、霊的責任をとっていく」というものです。教会の牧師や教師は、神さまの御言葉を人々に解き明かしていくことに忠実でなくてはなりません。しかしながら、私達クリスチャンは、自分自身の信仰のあり方、毎日の生活の中で如何に神様に忠実であるかといったことに対し、それぞれ自分自身で責任をとっていく必要があるのです。この数ヶ月の間に、私たちの教会に以下のような出来事がおこりました。

7月に、第2回目の、BBQがおこなわれ、近郊に住む多くの方が来て下さいました。サニーサイドキャンプも、ハイライトの1つです。霊的に決心をしていく人々が与えられる中、私たちの教会から4人の青年が洗礼をうけました。秋には、教会内のいろいろな活動が再開され、ホームグループ、聖書勉強会、青年会、男性部、女性部、子どもたちのそれぞれのミニストリーも、始まりました。来年も、私達が共に学び、また共に、友人、隣人、家族親戚や地域社会に届いていくことをめざす、素晴らしい年が持てることを期待し、筆をおきます。*

カルガリ一日系福音教会-日本語部

谷口洋一牧師

2008年夏のビッグイベントは、やはりサニーサイドキャンプでしょう。日本語部は、カリフォルニアより島田直先生を講師に、12回に及ぶメッセージをしていただきました。今回のテーマはピリピ3章10、11節でした。カルガリ、エドモントン、レスブリッジ、バンフ、BCそして日本から50名を超える参加者がありました。そのなかで、3名の方が信仰告白をされ、1名が洗礼の決心をされました。また、献身の決心をされた方も何人かいらっしゃいました。来年度の講師は、同じくカリフォルニアより、鍵和田先生がご奉仕して下さることが決まり、今から期待して、待ち望んでおります。

また、この夏には、中野先生ご夫妻をお招きして、伝道集会を持ちました。「こおすりや人生明るくなる」と題し、よりよい人間関係を築くための秘訣を教えてくださいました。お二人の方が信仰告白をされ、そのうち、一人の婦人が8月に、ペリカンがたくさんいるポー川で洗礼を受けられました。

9月には若いお母さんと6歳の息子さんが親子で洗礼を受けました。すばらしい証がなされました。ぜひ教会のホームページをお読みください。また、9月末の聖日にはハワイのお城の教会、マキキキリスト教会の黒田牧師がメッセージのご奉仕をして下さり、励ましを受けました。*

バンクーバー日系福音教会

425-11th St., New Westminster, BC V3M 4G1

日曜礼拝一午前11時より

福迫徹也牧師（日本語部） ロバート・ブラウン牧師（英語部）

Website: japanesegospelchurch.com



感謝を捧げよう！

ロバート・ブラウン師

この夏を振り返り、神様がすでになさったこと、またなさらり続けて下さっていることに、感謝の思いでいっぱいです。私たちの教会は毎年おこなわれるファミリーキャンプ、キャンプ・ルサーで祝福された時を持ち、霊的にも、肉体的にも精神的にもリフレッシュしました。若者も大人も一緒になり、共に賛美し、御言葉から学び、その他いろいろな活動をしました。

パターソン・ウォルター師（英語）と、中野雄一郎師（日本語）がメッセージを取り次いでくださり、3歳から12歳までの子供たちにはフクサク・マリさんとブラウン・ジェニファーさんが導いてくださいました。週末には、クリスチャン・ハワイアンフラダンスの時間も中野メイ子さんを先生としてもたれ、そのフラダンスは、日曜日の礼拝時に披露されました。

キャンプを終えてすぐの火曜日、バンクーバー地区での日本人アウトリーチの時には、中野先生がスペシャルゲストとしてきて下さり、75人ほどの出席がありました。一週間後の水曜日には、朝の聖書の学びと祈りの時及び夜の伝道集會に、大和昌平先生がミニストリーしてくださいました。大和師（東京基督教大学）は一年ほど前に「般若心経考小考」という仏教とキリスト教を比較研究した本を出版し、ハーベストタイム・テレビにも出演されました。今回大和先生を、初めての北アメリカへの旅行に際しお迎えできたことを光栄に思います。

先週の日曜日（9月21日）には、黒田朔牧師（マキキ聖城キリスト教会）が日本語部と英語部の合同礼拝でメッセージの奉仕をしてくださいました。黒田牧師は大和師をキリストへ導かれた方です。この2人が偶然にもほとんど同じ時期に私たちの教会に訪れてくださいました。

私達がこの記事を手にする頃までに、第3回ゴスペルナイトが行われている予定です。このアウトリーチは、バンクーバー南地区に住む日本人たちを招くと同時に、教会からほんの何ブロックか先のダグラススカレッジに来ている、多くの日本人留学生に向けて行われます。これは私たちの教会と、日本人伝道に重荷を持つ3つの韓国人教会が共催で行っているものです。

月末には、この教会から12人ほどの人が、韓国へ行き、キリストの臨在を見聞きし、証やメッセージを通してキリストにある交わりの時をもつ予定です。*

「同業者ではなく同労者として」

福迫徹也牧師

9月に今年2回目のバンクーバー地区の日本人伝道に関わる牧師会が開かれ10人が集まり、みことばを学び、祈り合い、食事の交わりを持つことが出来ました。私たちは日頃、違う教会で仕え、違う働きをしていますが同業者ではなく、主にある同労者です。このことは頭では理解していますが、実際の交わりが何もなくれば同労者ではなく同業者としての感覚しか持たなくなってしまいます。

同業者は競争相手ですが、同労者は協力相手です。私たちはお互いの数や働きを競争し合うのではなく、共にこの地域に神様が建ててくださったキリストのからだとして、共に神の国の前進のために同じ主であるキリストと教会に仕えています。

ここ数年、諸教会が協力して何かの集會を行うことはしていませんが、このような集まりを通してお互いの同労者としての意識を高め合い、祈り合い、励まし合うことが出来ればと願っております。そして、更に多くの参加者が与えられ、いずれは具体的な協力が多くの実を結んでいくことを願っています。

北米に滞在し、生活している日本人は日本国内にいる日本人よりも10倍以上の割合で福音を聞き、教会につながり、救われてると聞いています。日本国内の福音宣教が遅々として進まず1%の壁を破れない中であって、北米にある日本人伝道の働きは非常に大きな意味を持っています。

私自身もそうでしたが、北米で教会に導かれてキリストとなつた人が日本に送り返され、日本の教会につながっていくことこそ、日本の福音化のための大きな力となります。

先日の牧師会では祈りの課題としてバンクーバーにある約10の日本人クリスチャンの群れが、それぞれ300人教会に成長し、バンクーバー周辺の日本人人口（3万人）の1割をキリストに獲得することを挙げました。そのためにはキリスト、教会同士の祈りと協力と行動が必要です。

神様はそれぞれの時代にそれぞれの場所でキリストのからだを建て上げ、主にある交わりと同労者を与えてくださっていることを確認するひと時でした。*